

東日本大震災における学校・子ども関連施設の震災対応状況一覧表（幼稚園（学校施設）・子ども関連施設）

区分	No.	施設名	2) 地震発生直前の状況		3) 施設の被害状況	4) 震災直後の行動	5) 引き渡しの状況	6) 安否確認の状況	
			職員数	園児／児童	人的被害状況	発災後の行動（職員）		児童	職員
幼稚園	①	第一幼稚園	職員 4 名（園長、主任教諭、教諭、臨時職員）が在園	<ul style="list-style-type: none"> 卒園式を控え午前保育になっていたため、園児はいなかった。 園庭に釜石小学校の女子児童 2 名が遊びに来ていた。 その他、一時預かり等 0 名 	<ul style="list-style-type: none"> 職員：全員無事 園児：全員無事 	[地震直後] <ul style="list-style-type: none"> 教諭と臨時職員は釜小児童を連れて、仙寿院に避難 園長も仙寿院に避難 釜小児童 2 名は教諭と臨時職員とともに仙寿院に避難（その他） [夕方] <ul style="list-style-type: none"> 園長は一旦園舎に戻り、園内にある避難所で使うと思われる布団、薬、マット、カーペット、ポットなど出せるものはすべて出した後、仙寿院に戻った。 	なし	① 期間 <ul style="list-style-type: none"> 3月12日～3月17日 ② 方法 <ul style="list-style-type: none"> 手分けして各避難所を歩き、園児の安否確認を行った。 午後は働く婦人の家で避難所の手伝い 	<ul style="list-style-type: none"> 休みだった臨時職員は、当時、大船渡市三陸町綾里の自宅にいた。3週間ほど経ってから、本人の無事が確認できた。
	②	平田幼稚園	職員 5 名（園長、主任教諭 2 名、教諭、臨時職員）が在園	<ul style="list-style-type: none"> 当日は午前保育で園児 54 名中 50 名が自宅に帰っていた。午後 2 時 46 分には園児 4 名が預かり保育のため昼寝していた。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員：全員無事 園児：全員無事 	[地震直後] <ul style="list-style-type: none"> 職員 5 名と園児 4 名は、園庭中央に避難（職員・園児） その後、「津波が来る」という声を聞き、旧釜石商業高校の校庭に避難する。（職員・園児） [夕方から夜にかけて] <ul style="list-style-type: none"> 職員 5 名、旧商業高校体育館に泊まる。 	(1) 期間 <ul style="list-style-type: none"> 引渡し開始：3月11日夕方 引渡し完了：3月12日朝終了 (2) 状況 <ul style="list-style-type: none"> 3月11日、夕方から夜にかけて、4名中3名の保護者が迎えに来た。1名は職員5名と一緒に泊まる。 12日の朝、保護者が迎えに来たので帰した。 	① 期間 <ul style="list-style-type: none"> 3月12日から3月19日 ② 方法 <ul style="list-style-type: none"> 児童の安否確認は、主に徒歩で行った。平田地区の子どもたちは、自宅を訪ねて、それ以外の子どもたちは、市内の避難所を訪ねた。 	
	③	鶴住居幼稚園	職員 5 名（園長、主任教諭 2 名、臨時職員 2 名）が在園	<ul style="list-style-type: none"> 預かり保育の園児 4 名が在園 その他、一時預かり等 0 名 	<ul style="list-style-type: none"> 職員：園長 = 死亡、主任教諭 1 名 = 死亡、臨時職員 1 名 = 死亡、臨時教員 1 名 = 行方不明 園児：降園していた園児 3 名死亡 	[地震直後] <ul style="list-style-type: none"> 園児 2 名の保護者が来園し、2 名の園児を引渡した。（職員・園児） 職員 5 名、園児 2 名と一緒に園庭に避難（職員・園児） [津波襲来前] <ul style="list-style-type: none"> 園長は、幼稚園付近にいた。（職員・園児） 主任教諭 2 名、臨時教員 2 名は、鶴住居地区防災センターに園児 2 名と行ったが、主任教諭 1 名は同センターを出て行った。（職員・園児） [津波襲来後] <ul style="list-style-type: none"> 主任教諭 1 名と園児 2 名が津波の難を逃れた。（職員・園児） 園長、主任教諭 1 名、臨時職員 2 名が被災した。（職員・園児） 	(1) 期間 (2) 状況 <ul style="list-style-type: none"> 園児 2 名の保護者が来園し、2 名の園児を引渡した。 	① 期間 <ul style="list-style-type: none"> 3月19日～21日？ ※19日～21日（第一幼稚園職員による） (※ 第一幼稚園職員による) ② 方法	
①	釜石保育園	<ul style="list-style-type: none"> 19名在園 事務局長（1名）：1階事務局長室にて日常業務 園長（1名）：2階事務室にて理事会資料作成 保育士（10名）：各保育室で子どものお昼寝状況を見ながら、連絡ノートや日誌記載していた。 栄養士（1名）：2階事務室で栄養士業務 調理師（2名）：厨房でおやつ調理 事務員（2名）：2階事務室にて事務員業務 看護師（1名）：未満児保育室 パート（1名）：未満児保育室 	<ul style="list-style-type: none"> 71名在園 9名欠席 一時預かり 4 名 0～2歳児：1階南側保育室にてお昼寝中 3～4歳児：1階東側ホールにてお昼寝中 5歳児：2階西側保育室にて午後の遊び 	<ul style="list-style-type: none"> 職員：全員無事 園児：75名無事（当日休みの9名の児童は無事） 園で薬師公園に避難後、お迎えの保護者に引き渡した園児 → 家に戻ろうとして不明に。（園児 2 名、母、祖母 4 名 → 遺体で発見） 	[14:46頃] <ul style="list-style-type: none"> 揺れとともに園児、職員が避難を始めている園庭に出る。（事務局長） 揺れとともに2階事務室から1階0～2歳児保育室に移動。（園長、栄養士） 揺れの中の移動が困難 最初の揺れの直後に散歩車に順番に乗せ避難準備（保育士（0～2歳児）） 揺れが収まるのを待つ。（保育士（3～4歳児）） 保育中、テーブルの下に身を隠す。（保育士（5歳児）） 0～2歳児保育室に駆け付ける。（調理師） 0～2歳児保育室に駆け付ける。（事務員） 「津波が来る」と職員に真っ先に声をかけ避難を促す。（看護師・パート） お昼寝中に起こされそれぞれ散歩車に乗せられる。（0～2歳児） お昼寝中保育者に起こされ数分待機（3～4歳児） テーブルの下に潜り数分待機（5歳児） （その他） 1階北側保育室で釜石市歯科衛生士と保健師、分園長、主任保育士が会議中だったため、地震と同時に分園長と主任保育士は0～1歳児の保育室に駆けつける。 釜石市職員は職場に戻る。 	(1) 期間 <ul style="list-style-type: none"> 引き渡し開始：当日はのぞみ病院に駆けつける保護者もいたが、そのまま一晩過ごしてもらう。 翌日昼頃より、安全確認の上、可能な保護者は帰宅する。 引き渡し完了：3月13日午後8時00分 保育園解散：3月14日午前9時00分 (2) 状況 <ul style="list-style-type: none"> どこでどのように行ったかのぞみ病院（避難所）で、お迎えに来た都度、引き渡す。 ただし、当日夜は帰宅させず、とどまるようにする。 また、帰宅する場合には、帰宅場所の確認と家族が来た場合の連絡内容などを確認する。 	① 期間 <ul style="list-style-type: none"> 3月11日から3月20日頃 ② 方法 <ul style="list-style-type: none"> 徒歩 電話がつながったあとは電話	<ul style="list-style-type: none"> 公休だった職員は自宅が近かったので園児が避難した薬師公園に駆けつけ無事を確認できた。 盛岡まで通院のため午前で早退、無事を確認できたのは電話がつながってからである。 	

東日本大震災における学校・子ども関連施設の震災対応状況一覧表（幼稚園（学校施設）・子ども関連施設）

区分	No.	施設名	2) 地震発生直前の状況		3) 施設の被害状況	4) 震災直後の行動	5) 引き渡しの状況	6) 安否確認の状況	
			職員数	園児／児童	人的被害状況	発災後の行動（職員）		児童	職員
保育園	②	釜石保育園平田分園	<ul style="list-style-type: none"> 6名在園 主任：1名 保育士：4名 調理師：1名 計6名（パート1名は退勤） 	<ul style="list-style-type: none"> 0歳児：5名 1歳児：9名 2歳児：11名 計25名 	<ul style="list-style-type: none"> 職員：全員無事 児童：全員無事 	<p>[地震発生時]</p> <ul style="list-style-type: none"> 0歳児を1、2歳児保育室へ移動 1、2歳児を起し、中央に集める。トイレに子どもがいなか確認する。 カラー帽子をかぶせ、ジャンパーを着せ、0歳児は、おんぶした。 非常持ち出しバッグを準備し、給食担当はおやつのパンや食べ物を持ち、避難の準備をした。 地震の揺れが止まらず、避難のタイミングを待っていた。 迎えに来た保護者には、あいぜんの里に避難することを伝えた。 <p>[15:00頃]</p> <ul style="list-style-type: none"> 様子を見に来た園児の祖父の車に、保育士と園児を乗せ、災害時避難提携をしているあいぜんの里に避難 保育園の玄関に、避難先を掲示したのち、職員の車に園児と保育士、調理師を乗せ、あいぜんの里に向かう。 2歳児7名、1歳児6名、0歳児5名が、あいぜんの里に避難する。 職員2名は、歩いてあいぜんの里に向かった。 ホールで待機する。 	<p>(1) 期間</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き渡し開始；開始は、地震直後の平田保育園での引渡し 引き渡し完了：完了は14日(月)の10時頃、あいぜんの里で引渡した。 <p>(2) 状況</p> <ul style="list-style-type: none"> どこでどのように行ったか 地震発生直後：保育園にお迎えに来た保護者は、家族には自宅場所などの安全を確認し、0歳児1名、1歳児4名、2歳児4名引渡す。 PM3時過ぎ：あいぜんの里(災害時避難提携済)へ避難し、迎えに来た保護者に自宅場所、避難先の確認をし引渡す。園児5名引渡す。 開始と完了(日時) 11日： 避難直後、平田保育園へ保護者が迎えに駆けつけ、9名の園児を引渡す。あいぜんの里に避難後、5名の園児を引渡す。 夕方、残った園児(0歳児3名、1歳児2名、2歳児6名、計11名)と職6名に付き添った保護者、祖父母家族は、あいぜんの里に宿泊となる。 12日： 4名の園児を保護者又は祖父母に引渡し、0歳児3名、1歳児2名、2歳児2名計7名となり、職員は家族の安否を確認する。 13日： 3名の園児を引き渡し4名残る。0歳児2名(保護者一緒)、1歳児2名のみ迎えを待つこととなる。 14日： AM10時ごろ、残る2名に保護者の迎えあり、園児全員を無事引渡すことができ、解散 15日： 分園長、あいぜんの里、ニュータウン町内会へお礼の挨拶に行く。 釜石保育園、平田保育園の園児全員、無事保護者に引渡したことを、シーブラザと振興局の掲示板に掲示 	<p>① 期間</p> <ul style="list-style-type: none"> 3月11日から3月20日頃 <p>② 方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 徒歩 電話が繋がった後は電話 	
	③	鶴住居保育園・鶴住居子育て支援センター	<ul style="list-style-type: none"> 21名在園 	<ul style="list-style-type: none"> 73名在園 0～4歳児：お昼寝(保育室にてお昼寝中) 5歳児：クラス活動(保育室にて活動中) その他、一時預かり等1名 	<ul style="list-style-type: none"> 職員：全員無事 児童：2名死亡(当日欠席、防災センターに避難し被災1名、園で引渡し後防災センターで被災1名) 	<p>[地震発生時]</p> <ul style="list-style-type: none"> 園内に待機。 その場で地震時の避難体制をとる。 テーブルの下、頭を覆う、落下物を避けるなど。(園児) <p>[14:56頃]</p> <ul style="list-style-type: none"> 移動開始 クラス毎に避難場所へ移動(やまざきデイサービスへ)(園児) ※0.1歳児避難車 ※2歳児以上徒歩 <p>[15:10頃]</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難場所(やまざきデイサービス)に到着 点呼(園児、職員) 津波の状況確認 <p>[15:15頃]</p> <ul style="list-style-type: none"> 移動開始、待機 更に高台へ(恋の峠、仲野石材店敷地内) <p>[16:30頃]</p> <ul style="list-style-type: none"> 釜石小学校、旧釜石一中へ車で移動(その場に居合わせた車に乗せてもらう) 	<p>(1) 期間</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き渡し開始：3月11日14時56分 引き渡し完了：3月14日午前中に終了 <p>(2) 状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者に24名引渡す。 保護者へ引渡し16名 保護者への引渡し8名 保護者への引渡し14名 保護者への引渡し6名 保護者へ5名引渡す。 	<p>① 期間</p> <ul style="list-style-type: none"> 3月16日から3月23日 <p>② 方法</p> <ul style="list-style-type: none"> どちらも同様、知人が避難所を回って情報を知らせてくれた。また、避難所(釜石小)に知らせに来る方もいた。車が確保できてからは各避難所を回って確認した。 メールが使えるようになってからはメールでの確認を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 退勤職員2名のうち1名は避難場所に駆けつける。他の1人は1週間後くらいに避難所で確認 当日休んでいた職員は、(病休)被災地から遠く、3日ほどして本人が避難所に出向く。 ※園が被災したため、連絡場所を避難所(釜石小)とする。

東日本大震災における学校・子ども関連施設の震災対応状況一覧表（幼稚園（学校施設）・子ども関連施設）

区分	No.	施設名	2) 地震発生直前の状況		3) 施設の被害状況	4) 震災直後の行動	5) 引き渡しの状況	6) 安否確認の状況	
			職員数	園児／児童	人的被害状況	発災後の行動（職員）		児童	職員
子育て支援センター	①	大町子育て支援センター	<ul style="list-style-type: none"> 2名在園 職員1名と一緒に遊び、1名はセンター内で事務仕事をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 3組の親子が施設内にいた。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員：全員無事 利用者（親子）：全員無事 	<p>[地震発生時]</p> <ul style="list-style-type: none"> 頭上から物が落ちない場所に集まる。（利用者（親子）） それぞれの保護者に抱っこされ集まる。 <p>[15:00頃]</p> <ul style="list-style-type: none"> 津波の放送があったので市営アパートの上に避難する。 センター利用者の自宅待機させてもらう。 2組、自宅に戻る。（利用者（親子）） 1組、市営アパートの上に避難する。 <p>[17:00頃]</p> <ul style="list-style-type: none"> 釜石保育園園児はのぞみ病院に避難しているだろうとの思いから、市営アパートの裏山を越えて2名移動する。 その後は、釜石保育園と一緒に過ごす。 利用者親子とはそれぞれの避難となる。（利用者（親子）） 	<ul style="list-style-type: none"> なし 	<ul style="list-style-type: none"> なし 	<ul style="list-style-type: none"> なし
児童館・学童育成クラブ	①	箱崎児童館	<ul style="list-style-type: none"> 職員：2名出勤 	<ul style="list-style-type: none"> 14名在園 幼児：17名（3名欠席） 15時降園のため、お帰り仕度をし、ホールに集合していた。 その他、一時預かり等0名 	<ul style="list-style-type: none"> 職員：全員無事 児童：全員無事 	<p>[地震発生時]</p> <ul style="list-style-type: none"> 発生時間、中央に集まる。 職員1名がガス、ストーブを消す。 数分後、各部屋の窓ガラスが割れる音、物が倒れたり落ちる音がした。（部屋に戻って机の下にもぐらなくて良かったと思いました。） 落ち着くまで、身を縮めて待つ。 迎えに来た親が、玄関より子どもたちの靴を持ってきてくれる。（室内は歩けなかったため、園庭より回ってくる。） 外靴に履き替え、裏の空き地へ避難する。（職員・幼児・保護者） <p>[14:50頃]</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちを園庭に避難させる。 12名の子と避難する。 園庭に避難する。（児童） →2名迎えにきた保護者に引き渡す。（児童） 引き渡し開始：3月11日14:50～（児童） <p>[14:55頃]</p> <ul style="list-style-type: none"> 園舎の裏の空き地に避難する。（職員・児童） しばらくの間、地域の方々とその場で待機（職員・児童） <p>[15:20頃]</p> <ul style="list-style-type: none"> 郵便局付近に津波を確認し、山に向かって走って避難（職員・児童） 逃げる途中、二手に別れてしまう。（職員・児童） →自分の子と逃げた父がお寺のほうへ。その後の子どもたちも付いて行った。（5名） →一方は高台の避難場所へ。（7名） 	<p>(1) 期間</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き渡し開始：3月11日14:50～ 引き渡し完了：3月13日午前中 <p>(2) 状況</p> <ul style="list-style-type: none"> どこでどのように行ったか 地震直後（14:50頃）：園庭にて保護者2名へ幼児2名を引き渡す。 12日（朝）：離ればなれになっていた園児たちと合流 全員、Aさん宅へ。一緒に避難した保護者に幼児6名引渡す。 12日（午前）：保護者3名へ幼児4名引渡す。 12日（午後）：親戚へ幼児1名引渡す。 13日（午前）：保護者へ幼児1名引渡す。 たまたま数名の父兄も一緒に逃げ、次の日父兄を通じ避難先へ迎えにくる。箱崎白浜の子どもたちは、年中女児の父と一緒に白浜へ戻る。同じ町内だが、引き渡しに2日ほどかかった。 	<p>① 期間</p> <ul style="list-style-type: none"> 3月14日から3月末日 <p>② 方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難所を徒歩または自転車、バスを利用し確認。箱崎方面の子たちは甲子小・中に避難した。白浜の子は小川体育館。父兄より情報をいただき、確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> 地震発生後、欠勤職員よりTELあり（児童館内の黒電話が通じる） 発生後、2日目に釜石に戻り、館長と会い確認できた。
	②	鶴住居児童館・鶴住居学童育成クラブ	<ul style="list-style-type: none"> 勤務状況 1名：振休日 2名：勤務中 	<ul style="list-style-type: none"> 下校前で鶴住居小学校で勉強中 その他、一時預かり等0名 	<ul style="list-style-type: none"> 職員：全員無事 児童：全員無事 	<p>[14:46頃]</p> <ul style="list-style-type: none"> 各部屋のストーブの消火 地震直後、少し落ち着いてから隣接している保育園へ手伝いに行く。 保育園児と一緒に第一避難場所（ございしょの里）へ向かう。 津波が予想を上回り危険ということで、更に高台へ避難する。 小学生と一緒に移動し、甲子小まで一緒に行動する。 小学校（児童） 高台へ避難する。（児童） トラックで旧第一中学校の体育館へ移動。皆で一夜を過ごす。（児童） 12日は甲子小学校へ移動、親の元へ。（児童） （一週間後やっと釜石へ。） 	<p>下校前のため学校の対応</p>	<p>① 期間</p> <ul style="list-style-type: none"> 3月20日から3月30日 <p>② 方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 車で避難所を回って確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 携帯等不通のため、安否確認は一週間後に連絡がやっと取れる。

東日本大震災における学校・子ども関連施設の震災対応状況一覧表（幼稚園（学校施設）・子ども関連施設）

区分	No.	施設名	2) 地震発生直前の状況		3) 施設の被害状況	4) 震災直後の行動	5) 引き渡しの状況	6) 安否確認の状況	
			職員数	園児／児童	人的被害状況	発災後の行動（職員）		児童	職員
	③	唐丹児童館・唐丹学童育成クラブ	<ul style="list-style-type: none"> 5名在園 15時降園のため園児に帰宅準備を声掛けしていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 19名在園 園児：19名（1名欠席） 15時降園のためほとんどの園児が帰宅準備を済ませていた。 学童（児童） この日はまだ下校時間ではなく学童はいなかった。 その他、一時預かり等0名 	<ul style="list-style-type: none"> 職員：全員無事 児童：全員無事 	<p>[地震発生時]</p> <ul style="list-style-type: none"> 予想外の大きな地震と判断、すぐ避難道に近い年長の部屋（兼学童室）に園児を集め、人数確認をする。 危険を感じ直ちに園庭（館庭）に園児を誘導。 他の職員は他の部屋の火元の確認をし、戸を閉め園庭へ避難した。 職員の避難誘導の声にすぐに集まることができた。（上着（ジャンパーなど）を着ていて本当に良かった。）（園児） 何が起きたのか？ といった不安状態の子がほとんどだったが、しっかりと職員の話聞いていた。（園児） <p>[15:00頃]</p> <ul style="list-style-type: none"> 園児数を確認し、いつもの避難訓練ルートの“天照御祖神社”に避難 子供たちは避難訓練で一緒に手をつなぎ避難（園児） <p>[16:45頃]</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者の計らいで軽バス2台に乗り、職員5名とともに荒川集会所に避難 <p>[17:40頃]</p> <ul style="list-style-type: none"> 荒川集会所に避難した園児10名中3名のほかは家族が合流（避難した荒川集会所を聞きつけ）（園児） 	<p>(1) 期間</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き渡し開始：3月11日 引き渡し完了：3月12日 <p>(2) 状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 園児数を確認し、いつもの避難訓練ルートの“天照御祖神社”に避難。子どもたちは避難訓練と一緒に手をつなぎ避難。“天照御祖神社”に避難したことを知った保護者が迎えに来て、帰宅（8名） 他は、16時45分頃、保護者の計らいで軽バス2台に乗り、職員5名とともに荒川集会所に避難。唐丹小学校の生徒たち、先生方、地域の方々と合流（一緒） 17時40分頃、荒川集会所に避難した園児10名中3名のほかは家族が合流（避難した荒川集会所を聞きつけ） 祖母と一緒に 母と一緒に：5名 叔母と一緒に 職員と一緒に：3名 19時地域の方々の配慮で、園児と一緒に夕飯（おにぎり・漬物）をいただく。 20時頃、職員と一緒にいた園児の内2名の父が仕事から遠野～大船渡経由で合流するが、我が子の安否を確認すると自宅（花露辺）の様子を見に行く。 20時40分母と一緒に1名帰宅 震災当日11日の夜は、強い余震の怖さを何度も感じながらも、皆で声を掛け合い過ごした。 <p>翌日の12日</p> <ul style="list-style-type: none"> 6時50分職員と過ごした園児1名帰宅（親戚の方と） 8時職員と過ごした園児2名、父と帰宅。ここで保護者のいなかった3名の園児は無事帰宅。残りの6名は家族とともにいるので安心する。 11時母と1名帰宅 13時頃保護者2名・叔母1名・園児2名とともに“天照御祖神社”に戻る。唐丹小学校先生方も一緒。15時母と1名帰宅 12日の夜は、“天照御祖神社”に保護者（父）と園児・その園児の叔母と職員（3名）とともに過ごす。 <p>13日の正午</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者（父）と園児・その園児の叔母も帰宅。職員（3名）も帰路へ。 <p>※ 全員の園児を無事親元に帰すことができ、本当にうれしい限りであった。残った3名の職員は14日やっとなり帰宅、家族に会えた。</p> <p>※ 園児宅全壊（流失）。また、半壊は計9軒</p>	<p>① 期間</p> <ul style="list-style-type: none"> 3月11日から3月13日 <p>② 方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼児：3月11日天照御祖神社に避難し、1名保護者と帰宅（国道沿いの自宅で車（自家用）での走行が可能だった。） 欠席児1名 は花露辺の地域で自宅は（手前の家は流失したが…）無事。 早退児なし 学童：地震発生時はまだ1人も登館しておらず、全学童小学校にて避難 	11日開始。13日完了

東日本大震災における学校・子ども関連施設の震災対応状況一覧表（幼稚園（学校施設）・子ども関連施設）

区分	No.	施設名	2) 地震発生直前の状況		3) 施設の被害状況	4) 震災直後の行動	5) 引き渡しの状況	6) 安否確認の状況	
			職員数	園児／児童	人的被害状況	発災後の行動（職員）		児童	職員
	①	釜石学童育成クラブ	職員2名はクラブ室内で児童をみていた。	<ul style="list-style-type: none"> 11名在園 室内には宿題をする児童が8名くらいいた。宿題が終わった児童3名は、青葉公園で遊んでいた。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員：全員無事 児童：全員無事 	<p>[地震発生時]</p> <ul style="list-style-type: none"> 1名の指導員は青葉公園にいた児童たちを確認しに行った。 学童内に残った指導員は、学童にいた児童たちに上着を着るように指示した。 学童内は建物も古いし、物が散乱していて危ないので、外に出る準備をさせた。 大きな揺れだったので、学童内にいた児童たちはテーブルの下へ入った。（児童） 2年生は揺れの中、気持ちを落ち着かせるため、テーブルの下で音読を続けた。（児童） <p>[14:50頃]</p> <ul style="list-style-type: none"> 青葉公園に確認しに行った指導員が学童内にいた児童たちを呼びに戻ってきて、公園が避難場所ということで学童内にいた児童たちとともに青葉公園へ避難した。 青葉公園に着き、指導員2名で学童の児童たちと学童以外で公園にいた児童たちを集めた。 <p>[15:25頃]</p> <ul style="list-style-type: none"> 青葉ビルの職員が「ここでは危ないので高台に移動するように」と指示をした。 急いで2人組を作り、子どもが心配で飛んできたお母さんを先頭に1名の指導員は真ん中、もう1名の指導員は最後に付き、後ろを振り向かず走るようにと言って両手に児童と手をつなぎ、市営アパートの上の駐車場まで走って逃げた。 <p>[16:30頃]</p> <ul style="list-style-type: none"> 裁判所に避難場所を移した。 停電だったので、裁判所にある懐中電灯や石応禅寺からろうソクをいただき、灯りを確保した。 寒さは、新聞紙やテープで隙間を埋め、寒さをしのいだ。 トイレは、水が出ないので紙は流さないように袋に入れた。 学童の児童たちは御厚意で、1つの部屋で過ごすことができた。 窓から火災が発生しているのが見えたが、児童たちには外を見せないようにした。 不安からかおしっこの回数が増えたり、夜泣きをする子、極度の不安で嘔吐を繰り返す子がいた。（児童） 	<p>(1) 期間</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き渡し開始；3月12日 引き渡し完了；3月13日午前中 <p>(2) 状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難所での名簿作成後、各避難所への連絡が役所で早かったおかげで釜石学童育成クラブの避難場所が保護者に伝わるのが早かったため、引き渡しがスムーズに行われた。 	<p>① 期間</p> <ul style="list-style-type: none"> 3月12日から3月13日 <p>② 方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校、保護者と情報交換をし、速やかに安否確認ができた。 	

東日本大震災における学校・子ども関連施設の震災対応状況一覧表（幼稚園（学校施設）・子ども関連施設）

区分	No.	施設名	2) 地震発生直前の状況		3) 施設の被害状況	4) 震災直後の行動	5) 引き渡しの状況	6) 安否確認の状況	
			職員数	園児／児童	人的被害状況	発災後の行動（職員）		児童	職員
学 童 育 成 ク ラ ブ	②	白山学童育成クラブ	・ 職員2名はクラブ室内で児童をみていた。	・ 26名在園 ・ 室内には、主に低学年が12～13名宿題をしていた。校庭で遊んでいた児童は12～13名いた。 ・ その他、一時預かり等0名	・ 職員：全員無事 ・ 児童：全員無事	[地震発生時] ・ 揺れる中、児童に「真ん中にきて！」と声を掛けた。 ・ 本棚の本が落ちてきていた。 ・ 少し弱まった揺れに1名の職員は施設で、もう1名は校庭にいた児童の所へ行った。 ・ 施設内の児童は、職員の声で這うようにして移動し、自分たちでテーブルの下へ入る。それぞれ入ってじっと様子を見ていた。（児童） ・ 施設の外の児童は、建物の中から避難した白山小学校の先生方と一緒に校庭で3箇所に固まっていた。（児童） [14:50頃] ・ 児童全員の確認 ・ 校庭では先生方と行動（児童） ・ 施設では職員と行動（児童） [15:30頃] ・ 引き渡し開始；3月11日15時半頃 [16:00頃] ・ 2名、施設に残る。 ・ 白山小学校学校へ避難（児童）	(1) 期間 ・ 引き渡し開始；3月11日15時半頃 ・ 引き渡し完了；3月12日没近くだったと思う。 (2) 状況 ・ どこでどのように行ったか 学童の施設内では職員が保護者の方へ 小学校へ避難した児童は学童に先に保護者が来て「学校にいます」「友達、先生のいる所で元気ですから」と伝え、学校の先生から渡していただいた。 ・ 御家族や保護者との連絡、電話は停電で使用できず、携帯も電波が悪く、来た人たちに聞いたり伝言をお願いした。 ・ 児童の引き渡しは迎えにすぐ来られた方が多かった。 ・ 避難所の小学校も先生方がいた。保護者のことを知っていたため子どもの引渡しもスムーズだった。	① 期間 ・ 3月11日から3月22日 ② 方法 ・ 早く引き渡した児童は家族と自宅近くの避難所へ。また、早退の児童もそれぞれ安全な所へ避難し、自宅に戻ったりしていると聞いたので、行って確認した。	・ 児童の勉強等の世話やおやつ準備中で、2人とも室内に居たのですぐに確認できた。
	③	平田学童育成クラブ	・ 職員2名はクラブ室内で児童の宿題を見ていた。	・ 3月11日は、20名の児童が施設を利用していた。 ・ 施設内で8名の児童が、宿題をしていた。校庭には宿題を終えた12名の児童がいた。 ・ その他、一時預かり等0名	・ 職員：全員無事 ・ 児童：全員無事	[地震発生時] ・ 施設内の児童は、テーブルの下や部屋の中央に座り、校庭の児童も地面に座り、揺れが収まるのを待っていた。（職員・児童） [14:50頃] ・ 身の回りのものは施設内に置き、全員校庭に移動。平田小学校に残っていた児童と先生方と合流（職員・児童） [15:10頃] ・ 平田小学校3階に移動。点呼を取る。大津波警報が出る。（職員・児童） [15:30頃] ・ 安全で高い場所にある三陸鉄道平田駅に移動。子どもたちが津波を目視。施設の玄関に「平田駅に避難」を知らせる紙を貼る。（職員・児童） ・ 引き渡し開始：11日15:30頃から。（職員・児童） [16:20頃] ・ 外は寒く、暗くなってきたので小学校職員室に移動（職員・児童） [17:20頃] ・ 地元の消防団と青年団の方が旧商業高体育館に避難所を設けたので、避難するように軽トラック4台に分乗して移動（職員・児童）	(1) 期間 ・ 引き渡し開始：11日15:30頃から。 ・ 引き渡し完了：地震発生から2日後の13日昼過ぎ (2) 状況 ・ 当日は、携帯等は使用できない状況で、施設の玄関入口に「平田駅に避難」を知らせる紙を貼り、その後、暗くなってきたため「旧商業体育館に移動」を知らせる紙を貼り、青年団の軽トラ4台にて移動した。引き渡しは、家族、保護者確認の上、行った。（3月12日、夜に終了） ・ 当日は、午前授業で学校に残っている児童も少なく、先生方と相談の上、高台にある平田駅に避難した。 ・ どこでどのように行ったか 平田駅（15:30～16:20）と旧商業高避難所（17:00～）にて。 両親、家族の方と確認の上、引渡す。	① 期間 ② 方法 ・ 震災前に引き渡した児童と当日、欠席した児童への安否確認は行っていない。連絡待ちだった。	・ 別になし